

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 9 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/9 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9m ³ /h	30.9	105.4 kPa abs	A系：	0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系：	0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	41.3	9.21 kPa g	A系：	0.05 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系：	0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	40.5	0.24 kPa g	A系：	0.11 vol%
		給水系：約 2.0m ³ /h			B系：	0.10 vol%

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/10/9 10:08 頃 1号機サプレッションチェンバ内の残留水素を排出するため、H25/7/9 より窒素封入を断続的に実施しているが、H25/9/9より当面継続的に実施することとしたため、原子炉格納容器への窒素封入量が増加している状態が続いている。この状態におけるアウトリーク量を減らすため、原子炉圧力容器への窒素封入量を 30Nm³/h から 24Nm³/h へ調整を実施。

[3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況]

・H25/10/8 7:49 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ(10/3 8:00 時点)): 気温 24.4 、湿度 68.2%)
プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/9 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	26.0
2号機	循環冷却システム	運転中	26.2
3号機	循環冷却システム	運転中	25.3
4号機	循環冷却システム	運転中	30

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/4 10:26 ~ 移送実施中

7/16 13:00 ~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエアータンクへ移送を開始。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (10/9 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	C系ホット 試験中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/8/8 12:55～ 6/15 に多核種除去設備 A 系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在 A 系で実施している腐食防止対策を B 系でも実施するため、同設備 B 系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C 系は 9/27 にホット試験を開始。A 系は 10 月下旬、B 系は 11 月以降を目処にホット試験を再開予定。
- ・H25/10/4 6:43 頃 多核種除去設備 C 系について、工程異常の警報が発生して停止。現在、循環待機運転を行っている。なお、多核種除去設備 C 系について、漏えい等の異常は確認されていない。その後、原因が特定できたことから同日 18:31 同設備 C 系を起動。
- 10/5 13:58 多核種除去設備 A 系の処理再開に向けて、A 系の吸着材を交換する際に排出される廃液を C 系バッチ処理タンクで受け入れることから、C 系による RO 濃縮水の受入・処理を一時中断。
- 10/8 22:30 多核種除去設備 (ALPS) A 系の吸着材の交換が終了したことから、C 系による RO 濃縮水の受入・処理を再開。

< 5 . その他 >

- ・H25/10/8 3号機原子炉建屋がれき撤去作業に使用している600tクローラクレーンのジブと主マストの接合部材の損傷の再発防止対策を行うとともに、免震重要棟におけるダスト濃度上昇等の対策として連続ダストモニタを用いた作業中のダスト監視の追加などを行い、準備が整ったことからがれき撤去作業を再開。
- ・H25/10/7 9:47 頃 共通電源設備において、「母線電圧低」警報が発生し、所内共通電源設備(3B)が停止していることを確認。所内共通電源設備(3B)の停止を受けて、以下の状況を確認。なお、モニタリングポスト指示値の有意な変動、この停止によるけが人の発生、その他主要設備の異常は確認されてない。(10月7日公表)
その後、停止および自動で切り替わった設備のうち、10/8 に以下の設備を復旧した。これをもって、設備の復旧作業は全て終了。
・1号原子炉格納容器ガス管理システムモニタ(B)
- ・H25/10/9 9:35 頃、ジャバラハウス内にある淡水化装置(逆浸透膜式:RO-3)近傍での作業において、協力企業作業員が淡水化装置ドレン配管の取り外しを行うため、当該配管の接続部を外すところ、誤って淡水化装置入口側配管の耐圧ホース接続部を外したため*水漏れが発生。その後、配管の接続部をつなぎ直すとともに、配管付近の弁を閉めたことにより、10:50 に水漏れは停止。漏えい範囲は、ジャバラハウス内の堰全域の約 60m×約 12m×深さ数 cm 程度で、ジャバラハウス内の堰内に留まっており、外部への影響はない。また、漏えい箇所は淡水化装置(逆浸透膜式:RO-3)上流側の配管であり、漏えいした水は第二セシウム吸着装置(サリー)処理後の水(淡水化装置処理前の水)であることを確認。
・10/4 に公表している 8/13 採取の淡水化装置処理前の水の分析結果は、全ベータで 3.7×10^7 Bq/L であり、漏えい量の範囲から、本件については、10/9 に 11:10 に東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則第 18 条第 12 号「発電用原子炉施設の故障その他の不測の事態が生じたことにより、核燃料物質等(気体状のものを除く)が管理区域内で漏えいしたとき。」に該当すると判断した。
・当該作業および漏えい発生後の対応に従事していた 11 名の作業員のうち、5 名については、放射性物質の付着は確認されなかったが、その他の 6 名については、身体への放射性物質の付着を確認。身体への放射性物質の付着が確認された 6 名については、測定の結果、顔面部に付着がないことから、内部取り込みの可能性はないと判断。身体への放射性物質の付着が確認された 6 名のうち、5 名については除染が終わり、残りの 1 名については足裏の除染を引き続き実施中。
・その後、堰内に溜まった漏えい水の分析を実施。分析結果は、セシウム 134: 3.9×10^2 Bq/L、セシウム 137: 1.3×10^3 Bq/L、コバルト 60: 1.1×10^3 Bq/L、マンガン 54: 3.1×10^2 Bq/L、アンチモン 125: 9.4×10^3 Bq/L、全ガンマ: 1.3×10^4 Bq/L、全ベータ: 3.4×10^7 Bq/L、全放射能: 3.4×10^7 Bq/L。
・漏えい量については、約 7m³ と推定。堰内に漏れた水は、淡水化装置の廃液供給タンクへ回収する予定。
*「淡水化装置入口側の配管取り外しを行うため、当該配管の接続部を外すところ、誤って他の配管の接続部を外したため」と記載しておりましたが、正しくは「淡水化装置ドレン配管の取り外しを行うため、当該配管の接続部を外すところ、誤って淡水化装置入口側配管の耐圧ホース接続部を外したため」です。お詫びして訂正させていただきます。(平成 25 年 10 月 17 日訂正)

[H4 エリアタンク・B 南エリアからの水の漏えい関連]

< トピックス >

- ・10/6 H4 エリア グループ No.5 タンクの側板 1 段目の解体を実施。
- ・10/7 H4 エリア グループ No.5 タンクの底板部の解体を実施。
- < 最新のパトロール実績 (10/8) >
 - ・高線量当量率箇所(+ 線(70μm線量当量率))は確認されず。
 - ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。
- < H4 エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・有意な変動なし。
- < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は
10/9 0:00 時点で約 2,912m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

・有意な変動なし。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)

・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。

以上